

# 移住とアウェプラの慣行

## 中国南部のトン族社会における建前と本音

黄 潔（京都大学）

本報告は、従来漢民族の宗族モデルをもとに論じられてきたトン族社会集団の構造と編成に関する議論を、移住とアウェプラ（al weex bux lagx、異なる出自集団間の結合）の慣行からとらえなおすことを目指している。

中国南部に居住する少数民族トン族の社会は、父系出自・父系相続・父方居住を基盤にした男性主軸の社会であると指摘されている[周・浅川・田中 1990]。しかし、トン族の親族組織の特徴は、書記言語としての漢語によって、あたかも宗族であるかのように表現される点にある一方、トン語とトン族的な親族規範にもとづいても運用されている。

トン語では父系出自のことを、父親を意味する「ブ、bux」と息子や子供を意味する「ラ、lagx」という二つの言葉を組み合わせて、「プラ、bux lagx」と表記している。南方方言区のトン族の人びとでは、「プラ」は父系関係のある世帯群によって結ばれる親族集団とされ、トン族の社会構造の基本単位とみなされてきた。通常、プラは、父系の血縁関係に基づき、祖先を共通するという信仰に基づく組織であり、内部での婚姻を禁止されるなどの民間慣習法を有する。またプラが共有するものは、鼓楼（塔状集会所、プラの財力の象徴）と公共墓地、および清明田などであると指摘されている[鄧・呉 1995:27-37]。

漢語を書記言語として用いるトン族の人びとは漢字で「プラ」という言葉を表すとき、表音的に書かずに、表意的に「房族、fangs jux」（フワンズ、宗族の分節を指す）と書くことが多い。現在、トン族の南方方言区において、住民は「プラはフワンズである、bux lagx jangs fangs jux」と語られており、彼らが書いたプラの家譜・族譜や、鼓楼序碑文などの地方文書には「房族」がしばしば用いられている。つまり、現地のトン族のいわゆる「プラ」や「フワンズ」は漢語の「房族」に相当すると考えられる。それは彼らがプラのことを漢語で表現すべく、漢族の概念と意味を借用してきたのである。

そして、プラが集まって住む地理的な空間を表す言葉「トゥアン、danh」（漢字の「団」と書く）とトン族社会において自治を実施してきた最小の地域単位を指す言葉「シャイ、xaih」（漢字の「寨」と書く）を併せた「トゥアンシャイ、danh xaih」という用語を、村全体に相当するものと見做している。トゥアンシャイはプラの連合体である。通常、トゥアンシャイは単姓

プラが居住する単姓村と、複数のプラが居住する複姓村がある。さらに、一つの川（ニャ nyal）に沿って隣接するいくつかの村（シャイ）により形成される地域社会の単位を「セン、senl」と呼ぶ。調査地のトン族の人々の古歌や語りにおいてセンはしばしばクランやトン民族全体に相当するものとして表現されている。

本報告では、まず、トン族の地縁と出自イデオロギー（建前）について論じる。漢民族の宗族と単姓村のモデルをもとに、プラ（父系出自）が世帯の連合体であり、トゥアンシャイ（村落社会）はプラの連合体であり、セン（流域社会）は村の連合体であり氏族であったと語られる傾向にある。そのなかで、プラの鼓楼はトゥアンシャイの会議場となり、セン内の村落間の公共活動を行う場所となったこと、また、プラのリーダーは常にトゥアンシャイのリーダーとセンのリーダーを兼ねることが、「地域集団＝出自集団」という理念に貢献していることを明らかにする。

また、上記の漢民族の宗族モデルから逸脱する例として、アウェプラ（あるいは内姓と外姓）の慣行（本音）について説明する。トン族の固有の親族規範について情報を補足することで、トン族の社会集団の集合と分化のあり方を明らかにする。具体的には、トゥアンシャイ・レベルでは、起源地と移住史に基づいて大プラ（先住者）と小プラ（後来者）の優位・劣位の序列が定着している。小プラを大プラに吸収する方法は擬制的な兄弟関係の設定であり、大プラを複数の内姓に分割する方法は、プラの分節を別の場所に移住させる習俗の応用であった。セン・レベルでは、定住してきた順によってラガ（先住者）とラカム（後来者）といった優位・劣位の序列が形成される。ラカムをラガに吸収する方法は、父親と息子の親族関係を模擬し、村々の連合は兄弟関係を模擬する。こうして地域単位の分化方法は、プラの分節と類似した原理にあることを解明する。

周達生・浅川滋男・田中淡

1990 「貴州トン族の高床住居と集落構成に関する調査と研究(1)」『住宅総合研究財団研究年報』16:223-239。

鄧敏文・呉浩

1995 『没有国王的王国』中国社会科学出版社。

キーワード 移住、アウェプラ、中国南部、トン族、出自